

平成28年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立宮の原小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成28年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成28年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A 56人 国語B 56人

② 算数A 56人 算数B 56人

5 留意事項

(1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

(2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

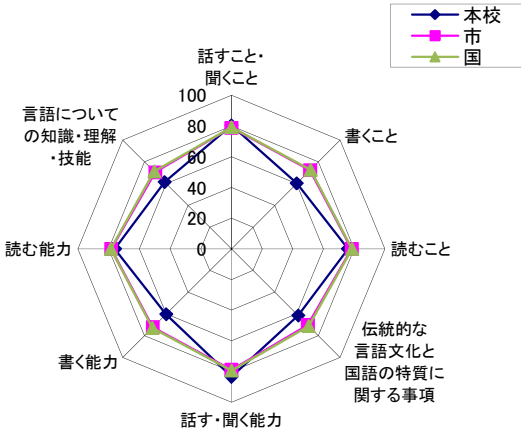
(3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」, 「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立宮の原小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

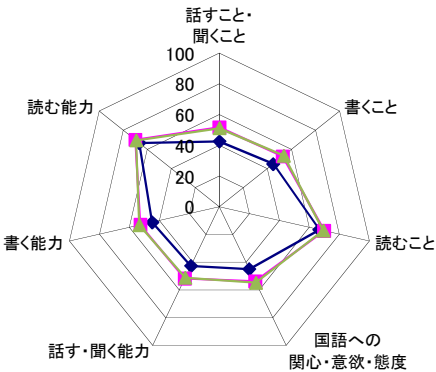
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	80.3	78.8	79.2
	書くこと	60.2	72.4	72.8
	読むこと	75.9	78.3	78.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	61.5	70.3	71.1
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	83.3	78.8	79.2
	書く能力	60.2	72.4	72.8
	読む能力	75.9	78.3	78.5
	言語についての知識・理解・技能	61.5	70.3	71.1



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	42.6	51.7	51.1
	書くこと	44.8	52.7	53.4
	読むこと	66.7	69.9	69.3
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	44.9	53.8	54.7
	話す・聞く能力	42.6	51.7	51.1
	書く能力	44.8	52.7	53.4
	読む能力	66.7	69.9	69.3
	言語についての知識・理解・技能			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

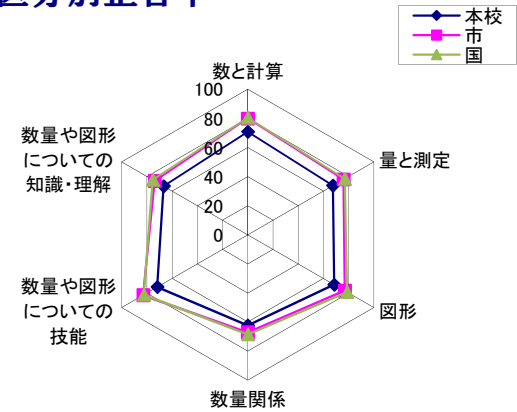
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	国語Aでは正答率が市や全国を上回ったが、国語Bでは市や全国を下回った。 ○目的や意図に応じて、収集した情報を関係づけて考えることはでき、正答率は市や全国を上回った。 ●メモを基に話の展開に沿って質問をしたり話し手の意図を捉えながら聞いたりすることに課題がある。	・話の内容を整理したりまとめたりする力を伸ばすため、メモを取りながら聞く活動を取り入れ、話し手の意図を考えさせる。また、朝の会などに、スピーチメモを書いてスピーチをする活動を行い、話をする機会をつくる。
書くこと	国語A、Bともに正答率が市や全国を下回っている。国語Aでは市を12.2ポイント下回った。 ○グラフに示された内容を基に、分かったことを的確に書く問題の正答率は全国と同程度だった。 ●ルール説明の表現について助言する設問の正答率が低い。表現を推敲し、よりよく工夫することに課題がある。	・文章表現を推敲し、工夫することに課題が見られるため、話や文章の内容をまとめたり、自分の考えを文章に書いたりする活動を時間をかけてじっくり取り組ませ、表現をよりよくする方法を身に付けさせる。
読むこと	国語A、国語Bともに正答率が市や全国を下回った。 ○「パン職人」に関する資料を選んだ目的を選ぶ設問の正答率は市や全国を上回る。目的に合わせた資料を選択する力は身に付いていると思われる。 ●物語の登場人物の人物像を複数の叙述を基にして捉えることや、目的に応じて本や文章を比べるなど効果的な読み方を工夫することに課題がある。	・叙述に即して読むことができるようにするため、物語の登場人物の人物像や考え方などを考えるときに、本文のどの部分からそう考えたのかを明らかにして活動させる。 ・資料を比べるなど、工夫して読み取る力を伸ばすため、社会科など他教科でも様々な資料や文章に触れさせる。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	正答率が市や全国を下回った。 ●漢字の書きについては問題によっては正解できているものの、読み書きともに課題が見られる。ローマ字についても書き、読みともに課題がある。	・漢字の定着が図れるよう、新出漢字の学習では従来の指導とともに、漢字や熟語の意味も併せて指導し、記号ではなく意味のある文字として定着させたい。 ・ローマ字の読み書きを定着させるため、パソコン室を利用した学習の機会を捉えて復習をする。また、名前をローマ字で記入させるなど、授業以外にもローマ字に触れる活動の機会を設ける。

宇都宮市立宮の原小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

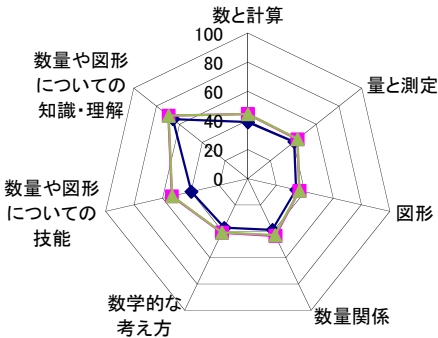
【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	70.7	79.9	80.5
	量と測定	67.6	75.9	77.0
	図形	68.5	76.9	78.8
	数量関係	62.3	67.1	68.5
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	71.9	83.1	82.5
	数量や図形についての知識・理解	66.8	73.9	75.4



【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	38.9	44.5	44.4
	量と測定	40.7	43.5	43.7
	図形	34.0	36.2	36.3
	数量関係	38.9	43.5	42.9
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	37.2	41.0	40.9
	数量や図形についての技能	39.8	53.5	53.3
	数量や図形についての知識・理解	65.7	69.6	69.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	算数A、Bともに、市や全国の平均を下回っている。 ○繰り下がりのある減法の計算や二つの数の大小関係を不等号で表すことはよくできている。 ●小数の意味や大小関係、加法、除法の正答率が低く、小数の理解に課題がある。また、数値を求めるための理由を言葉や式を使って説明することに課題がある。	・計算の技能については反復練習で定着を図っているが、今後も引き続き徹底して行っていきたい。 ・小数の意味や大小関係などの既習事項については、関連する単元のレディネスとして復習をし、理解を図る。 ・数値を求めるための理由の説明については、授業の際に自分の考えを式や言葉を使ってノートに書かせたり発表させたりする機会を多くもつことで、理解を深めていけるようにする。
量と測定	算数A、Bともに、市や全国の平均を下回っている。 ○単位量当たりの大きさを求めるために必要な情報を判断する問題の正答率は、全国や市の平均をやや上回っている。 ●単位量当たりの大きさの求め方や、三角形の底辺と高さの関係の理解に課題がある。また、示された説明を解釈し、別の場面に適用して説明することに課題がある。	・単位量当たりの大きさや三角形の底辺と高さの関係については、関連する単元の学習をする中での復習を繰り返し、理解させるようにする。 ・示された説明を解釈し、別の場面に適用して説明することについては、ノート指導や個別指導を行いながら個々の理解を深めていけるようにする。
図形	算数A、Bともに、市や全国の平均を下回っている。 ○示された四角形を並べてできる図形を選ぶ問題の正答率は、全国や市の平均をやや上回っている。 ●直方体の面と面の位置関係や正方形に内接する円の作図に関する問題の正答率が低く、図形の性質についての基本的な知識理解に課題がある。	・図形の性質については、関連する単元以外においても折に触れて基本的な事項を確認させるとともに、短時間での復習を繰り返し、理解させるようにする。
数量関係	算数A、Bともに、市や全国の平均を下回っている。 ○示された事柄について、表を基に読み取ることができない事柄を特定する問題の正答率は、全国や県の平均を上回っている。 ●ハードルの数とインターバルの数の関係を式に表し、ハードルの位置を求める問題の正答率が低く、数量の関係を表す立式や計算の技能に課題がある。	・数量関係を表す立式や計算の技能については、関係を読み取り立式するワークシートの工夫やヒントカードの準備を行うとともに、少人数指導を通して、理解させるようにする。

宇都宮市立宮の原小学校第6学年児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分にはよいところがあると思うか」という質問には、肯定的回答が全国や市の割合を上回っており、今後も学級活動や道徳などを活用しながら一人一人の自己肯定感を高めていけるよう努めたい。

○いじめに関しては、どんな理由があってもいけないことだと90%を超える児童が回答し、全国や市の割合を上回っている。また、「人が困っているときに進んで助けている」という質問でも肯定的回答が全国や市の割合を上回っており、今後も学級活動や道徳などを活用しながらいじめを許さず、助け合える仲間づくりに努めたい。

○算数については、「学習したことが将来社会に出たときに役に立つ」と肯定的に回答している児童が全国や市の割合を上回っており、また、「学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える」という児童も全国や県の割合を上回った。今後も、授業を通して興味関心を高め、進んで算数を活用しようとする児童の育成に努めたい。

●「学校に行くのは楽しいと思うか」、「学校で友達と会うのは楽しいと思うか」という質問の肯定的な回答が全国や市の割合を大きく下回っており、学級活動などを通して居心地のよい学級集団づくりに努める。

●「学級会などの時間に友達同士で話し合って学級のきまりなどを決めていると思うか」、「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがあるか」という質問の肯定的な回答が全国や市の割合を下回っており、学級活動の話し合い活動や学校行事での活動を通して、児童が主体的に生き生きと活動できる学級集団づくりに努める。

●「先生が分かるまで教えてくれるか」という質問の肯定的な回答が全国や市の割合を下回っており、少人数指導や個別指導を通して、児童一人一人の指導の充実に努める。

●「ノートに学習の目標とまとめを書いていたと思いますか」という質問の肯定的な回答が全国や市の割合を下回っており、現在行っているめあてやまとめを書く活動を継続するとともに、ノートの書き方の指導にも努める。

●学校の宿題をはじめ、家で予習や復習をする児童の割合が全国や市の割合を大きく下回っており、児童に対しては現在使用している「家庭学習の手引き」を通して引き続き家庭学習のやり方などを指導していくとともに、学級懇談会や学年だよりを通して、家庭への働きかけを積極的に行っていく。

●地域の行事に参加していない児童が多く、家庭からも参加を促してもらえよう働きかける。